

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873900561
法人名	有限会社介護サービスゆう
事業所名	グループホームゆう
所在地	愛媛県北宇和郡鬼北町大字奈良3768番地3
自己評価作成日	平成24年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・社訓の「利用者様は我が父母なり」の思いで、お一人お一人に接している。家族のように明るく和やかな生活を送れるよう心がけている。 ・理念「一人ひとりの個性を尊重し、その人らしい生活を送れるよう支援する」という理念の基、利用者の今までの生活や地域との関わりを大切に、継続できるよう支援している。 ・環境に恵まれお天気の良い日は毎日隣接する小学校などに散歩に出かけている。 ・食べたいものお聞きしながら食事を一緒に作っている。中庭で収穫した季節折々の野菜で食事を楽しませている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ●地域の認知症の理解を助けられるように、職員は、認知症サポーター養成講座を受講して、さらに地域のサポーターの養成にも取り組みを拡げておられる。銀行等で講座を開催されており、今後は「学校のPTAの方達に向けても開催したい」と考えておられた。講座で知り合いになった方がボランティアや運営推進会議に参加してくださっている。以前に、隣接する小学校の校庭で草引きをされていた利用者があり、小学生とふれ合う機会が多かったことから、小学生はお年寄りや認知症の方も自然に受け入れて声をかけてくれるようになっていた。利用者は、小学校の校庭も散歩コースになっていて、春には校庭の桜の木のもとでお花見もされた。
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホームゆう

(ユニット名)

あんず

記入者(管理者)

氏名

二神和美

評価完了日

24年 8月 30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) グループホームに関わる法令の意義を理解しており、自らのホームの運営上の方針や目標等に具体化している。「一人ひとりの個性を尊重し、その人らしい生活を送れるよう支援する」の理念に基づいたケアを実施している。	
			(外部評価) 理念は居間に掲示されており、事業所では、利用者個々の違いや個性を大切にす支援を目指して取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 小学校の運動会・交流授業・小学校の太鼓クラブ・保育所のお祭りごっこなど地域との交流を図っている。地域の方が運営推進会議にも参加されたりボランティアとして関わって頂いている。	
			(外部評価) 地域の認知症の理解を助けられるように、職員は、認知症サポーター養成講座を受講して、さらに地域のサポーターの養成にも取り組みを拡げておられる。銀行等で講座を開催されており、今後は「学校のPTAの方達に向けても開催したい」と考えておられた。講座で知り合いになった方がボランティアや運営推進会議に参加してくださっている。以前に、隣接する小学校の校庭で草引きをされていた利用者があり、小学生とふれ合う機会が多かったことから、児童達は、お年寄りや認知症の方も自然に受け入れて声をかけてくれるようになっているようだ。利用者は、小学校の校庭も散歩コースになっていて、春には校庭の桜の木のもとでお花見もされた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 事業所の職員が認知症キャラバンメイトとして、銀行などで認知症サポーター養成講座を開講し、認知症の理解普及に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議等で家族・利用者に直接要望等をお聞きしている。民生委員などに参加して頂き意見を取り入れ、常にサービスの向上に力を入れている。	
			(外部評価) 民生委員の方が会議によく参加してくださっており、地域の情報を教えてくださり、地域とのつなぎ役を担ってくださっている。今後は、「地域の老人会の方達にも声をかけて参加いただきたい」と考えておられた。認知症サポーター養成講座で知り合った障害者施設の方が会議に参加してくださった。会議には、利用者も参加されており、事業所での生活について感想を話してくださっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 保健福祉課や地域包括支援センターと連携を取り合い、報告・相談等行なっている。	
			(外部評価) 町の担当者の方が会議に参加され、他事業所の取組みや情報を教えてくださっている。事業所から転倒等の報告を行なった際、町の担当者から「職員の気付きが大切」とアドバイスがあったこと等もきっかけとなり、事業所では、ヒヤリハット記録を採り入れておられ、ケアの点検や改善につながっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ミーティングで全職員に周知徹底をしている。個々に応じてやむおえない場合のみご家族と話し合い同意をえている。	
			(外部評価) 事業所の建物は窓が大きい造りになっており、外の様子がよく見え、利用者は中庭に出たり、ユニット間を自由に行き来して、開放的な空間となっている。居室で転倒したことがあり、特に職員の見守りが必要な利用者がおられ、ご家族等の希望もあって、現在は、居間の畳のスペースで食事したり、夜間時も休んでおられる。転倒が数件発生したことで、事業所では、ヒヤリハット記録の充実を図り、又、「利用者が履いている靴がご本人に合ったものか」全員の靴を点検する等して、事故を未然に防ぐ効果が表れている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングで全職員に周知徹底をしている。職員は身体での虐待だけでなく精神面での虐待にも注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 事業所内で日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している。又ミーティングで勉強会を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い利用者、家族共に理解、納得の上契約、解約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議等で家族や利用者が参加して意見を述べる場を設けている。又不満、苦情等があればその都度対応しサービス向上に努めている。	
			(外部評価) 毎月、ご家族へは書類とともに、日々の利用者の様子を記した手紙を同封されており、ご家族も楽しみにされている。ご家族の来訪時、職員は、ゆっくりお話する時間を作り、「ご家族が楽な気持ちになって帰れるように」取り組まれている。外出行事時等、ご家族がちょうど来られたような時には、お誘いして一緒に出かけて楽しまれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月1回のミーティングで意見交換を行っている。又問題があればその都度話し合いを行い、早めに対応している。	
			(外部評価)	
			職員のアイデアで、手芸や壁の飾り等を利用者として飾っておられる。職員は、おむつの使い方等、自分が行っているケアで、よかったことを他の職員にも伝達しながら取り組まれている。職員は、体力が低下した利用者には、「何かできることはないか」探って、提案していきたいと話されていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			代表者は可能な限り職員の状況を把握するよう努めている。又介護職員処遇改善交付金を支給している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修会は可能な限り参加している。毎月ミーティングを行い研鑽に努めている。定期的な自己評価を行い、自分自身を見つめ直す機会をもっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			研修会等で知り合った同業者との交流を深め情報を得、サービスの質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所時に、本人の不安を取り除けるよう、希望をお聞きし安心して生活して頂けるよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に家族との話し合いを持ち、詳しくアセスメントを行なっている。又、何か問題があればその都度話し合いを持って家族の意向に沿える努力を行なっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族、専門機関の意見を聞き、個々に合ったサービスの提供が行なえるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は人生の先輩である利用者から学ぶ姿勢を心がけている。その中で得意なことに挑戦して頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には利用者の状況をお伝えし、共に本人を支える為に相談等行なっている。又、家族が気軽に訪問され食事、外出、外泊など心とむひと時を過ごされたりして、交流の機会を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 親しい友人との交流、宗教の会合への参加など、今までの生活が継続出来るよう支援している。 (外部評価) 隣接するデイサービスに通う奥様の食事介助に行かれる利用者がいる。姉妹や友人が訪ねて来てくれる方もあり、職員は、お茶等をお出しして、居室でゆっくりお話ができるよう配慮をされている。ご自宅に泊まる利用者の方は、出かけて行く際、職員に「部屋を頼んだよ」と声をかけて行かれるようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の個性、障害を把握したうえで良い関係が築けるよう職員が支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所なし	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人、家族等より詳しいアセスメントを行いセンター方式にてその人らしい生活を支援できるよう取り組んでいる。 (外部評価) 職員は、利用者で新聞の広告を見ながら流行の話や、食材をみながら食べたいものや調理法の話に広がる等、その時々のお話から利用者の好みや希望を聞き取っており、又、塗り絵をもとに、食べたいものや以前の経験等のお話を聞くこともある。昼食後には、居間で日記を書く方があり、職員と一緒に思い出しながら、食事の内容等を書いておられた。	事業所理念「その人らしい生活を送れるよう支援する」の実践に向けて、さらに利用者一人ひとりの「その人らしい生活」の情報収集に取り組んでいかれてほしい。利用者が重度化して意思表示が難しくなった場合にも、利用者本位のケアに取り組めるよう、情報を活かしていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族、関係機関等により、これまでの生活歴や病歴など詳しくアセスメントできるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や、心身状態の把握を行い、残存機能の維持向上に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			毎月モニタリングを行い達成感・満足度を評価している。6ヵ月・更新時・必要時にカンファレンスを開催し計画を見直している。	
			(外部評価)	
			利用者やご家族の希望を聞き取り、介護計画を立てて支援されている。毎月のモニタリングでは、利用者のご家族の満足度を職員で推測して示しておられる。	利用者一人ひとりについて、暮らし方の希望や意向、又、できること等にも働きかけながら、個々の生活がさらに広がっていくような計画の作成にも、取り組んでみてはどうだろうか。利用者や地域資源をつなげるような支援を工夫してほしい。職員は、利用者のできること、やってみたいこと等を引き出して支援できるよう、チャレンジしたいと話しておられた。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日々の様子や、ケアの実施、結果、気づき等を個別記録に記入し、全職員で共有し介護計画に役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			家族・利用者の要望に添えるよう対応している。利用者が欲しいものがあれば一緒に買い物に出かけたり、いきつけの理美容院や歯医者、通院・外出時の付き添い、送迎等行なっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			認知症サポーター研修で地域の方との和を助け利用者を守り支えて頂けるようになった。また隣接する小学校に散歩し友好を育てている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			本人、家族の希望によりかかりつけ医を決定している。又、緊急時は協力医が対応してくれる。	
			(外部評価)	
			協力医や入居前からのかかりつけ医に、ご家族や職員が付き添って受診を支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			職場内の看護職員が定期的に身体状況の観察を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			利用者の情報提供を行い、安心した入院生活、又病院関係者とサービス担当者会議を行い早期に退院できるよう情報交換や相談に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			入所時、看取り指針の契約を行っている。本人、家族の意向に沿えるよう協力医の往診、訪問看護の支援を頂き終末期ケアに取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			利用者やご家族は「ホームで最期を迎えたい」と、希望する方がほとんどである。ミキサー食の方にも職員は、献立を伝えながら介助して、味わえるよう支援されている。介護度重度の方もデイサービスのお風呂を使用して、入浴できるよう支援されている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急法の講習を定期的に受け緊急時の対処方法を学んでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 利用者や施設の状況を考慮し夜間を想定した火災訓練の実施、グループホームすもも、宅老所職員への連絡、連携体制にて、避難、誘導など訓練している。また、地域の防災訓練に職員が参加し緊急時の協力体制を築いている。 (外部評価) 12月には、集会所で行われた地域の自主防災訓練に職員が2名参加された。事業所では、年2回訓練を行っておられ、夜間の火災を想定した避難訓練では、連絡体制や避難誘導の訓練を実施されている。又、救急救命法についても学んでおられる。	地震等を想定した避難訓練等、いざという時に職員が慌てず対応できるよう、今後いろいろな場面を想定した訓練を重ねていかれてほしい。運営推進会議等の機会を捉えて、災害時、「事業所が地域に協力してほしいこと」や、又、「事業所が地域に対してどのようなことができるか」ということを話し合ってみてはどうだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の尊厳・プライバシーの保持の為の取り組みを行っている。名前を呼ぶ時は名字でお呼びする。尊敬の念を持って優しく敬語で接する。プライドを尊重するなど意識を介護にあたっている。 (外部評価) 職員は、「自分が感情的になったら、利用者も嫌な気分になり、落ち着かれない」と、体験により深く理解されており、利用者に笑顔でやさしく対応することに心がけておられる。他の利用者が無断でご自分の居室に入ることを嫌う利用者には、入り口の戸にフックを付けて、ご自分で鍵をかけられるようにされている。一人暮らしをしていた利用者の方は、一番風呂を希望されたり、又、調査訪問時には、居室で食事をされていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自立に向けての支援を心がけている。なるべく職員は手を出さず、見守りながらさりげない支援を行なっている。常に本人の意思を尊重している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床・就寝・食事時間等決まっていない。日中は買い物や畑、散歩など本人の希望に沿って支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の希望に合わせて、馴染みの理美容院に行かれたり、職員がカットを行ったり、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑で収穫した野菜を使い食事を一緒に作り楽しく食べている。片付けは利用者さんが中心にされている。出来ない部分を職員が援助している。 (外部評価) 朝食は、ごはんかパンを選べる日を作っておられる。調査訪問時には、外で日向ぼっこをされていたが、職員が「もうそろそろ昼ごはんにしましょうか」と声をかけると、それぞれのユニットに戻って手を洗ったり、テーブルを拭いたりして食事の準備をされていた。ご家族が剥いだ栗を持って来てくださっており、栗ごはんを作っておられた。ユニットごとに食事の内容が違い、利用者の希望も採り入れやすくされている。台所はオープンになっており、利用者が自由に台所に入って洗い物をされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの食事摂取量を記録している。水分は夏はお茶ゼリーを作って食事の時に出している。またいつでも飲めるようにオーナージャックを置いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後利用者に合わせた誘導を行い、歯磨き、義歯の手入れ等口腔ケアを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄にこだわり昼のおムツをはずしたり、夜間も誘導を行っている。また水道の音で尿意を促したり工夫しながら失禁予防を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>トイレに座る支援に心がけておられ、職員は、排泄しやすいように腰のあたりを軽くタッピングしたり、水の音が聞こえるようにして排泄を促し、自然な排泄につなげておられる。トイレの位置がわかるよう「便所」と書いて、目の高さに立体的に表示されている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>個々に合った便秘予防や排便チェックをし、体調管理を行っている。また、ヨーグルトや繊維質の多い食事やお茶ゼリーで水分の補給に配慮している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>個人の意思を尊重し好きな時間に入浴して頂いたり、冬場は温泉の素を入れ入浴の楽しみや気分を味わってもらっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>石のタイルの浴室には、床に滑り止めを敷いて利用されている。檜の浴槽で、利用者はだいたい毎日入浴して温まれるよう支援されている。現在は午後から入浴をされている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>その時々状況に応じて対応している。生活にリズムをつけたり、安心できる環境作りを行なっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の使用する薬の目的や、副作用、用法や用量を確認し、医師の指示通りに服薬出来るよう支援し、症状の変化を観察している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々に合った役割が自然と出来ており、利用者同士が助け合って生活している。楽しみを共有しながら個人の趣味など生きがいを感じながら生活している	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 欲しいものがあれば一緒に買い物に行ったり、レク外出、宗教の会合、お墓参りなど友人、家族、地域の方の協力を得ながら個人の希望を出来るだけお聞きし外出できるよう支援している。	さらに、利用者が行ってみたい場所や、懐かしいところ等にも出かけられるような支援にも、取り組まれてはどうだろうか。利用者それぞれに大切な思い出の場所や人等はないだろうか。利用者から「行ってみたい」と思えるように、気持ちを引き出して支援につなげていかれてほしい。
			(外部評価) 毎年、町外の知り合いの方のところへ、さつまいも掘りに出かけておられる。お芋をふかしてくれ、季節を味わうことができ、利用者は喜ばれるようだ。歩いて近くのカラオケ喫茶に出かけ、忘年会をされたりしている。ひ孫さんにクリスマスやお節句のプレゼントを送ることを楽しみにしている利用者の方は、職員と買い物に出かけて、職員と一緒に子どもが喜ぶものを探しておられる。ひ孫さんからのお礼の手紙をとても楽しみにされているようだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者が自分でお金を持つことの大切さを職員は分かっており、日常の金銭管理ができるよう、一人ひとりの希望や力に応じて支援している。財布は事務所で管理し、必要時一緒に買い物に行き家族に贈り物などをされている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙のやり取りをされたり、家族との電話を楽しみにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有の空間では利用者が過ごしやすく開放的でゆっくりできるよう工夫している。ソファ、畳、こたつなど自由に過ごすことができる。食堂や居間に季節ごとの利用者の作品を展示している。	
			(外部評価) 調査訪問時、玄関には、きんもくせいの花木を生けておられ、入口を入ると秋を感じる匂いがしていた。又、夏野菜やグリーンカーテンの後片付け等をされており、緑の匂いもしていた。両ユニットの間の中庭には、洗たく干し場や畑があり、又、ベンチも設置されていて、作業したり、おしゃべりしたりして、よく利用されている。テレビ前には、畳とソファのコーナーがあり、洗濯物を畳んだり、新聞を読んだり、横になったりして過ごされていた。3時過ぎには音楽をかけて、みんなが集まり体操をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂や居間のこたつ、窓際のソファ、又、中庭のベンチなど、自由に好きな場所でくつろいで過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家での暮らしの延長を提供出来る様、自宅で使用されていた家具や身のまわりの小物などを持ってきて頂いて使用している。又希望をお聞きして畳を敷いている。ホットカーペットの使用もしている。	
			(外部評価) 調査訪問時は、とても天気がよく、事業所を囲むフェンスや居室の窓に布団を干しておられた。又、窓や入口の戸を開放しておられ、自然の風が入ってきていた。居室を自分用の掃除機やほうきで掃除される方や、人にいじられるのは嫌な方があり、ご自分が納得する職員と一緒に掃除等する方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下、トイレ、風呂場に手すりを設置し、玄関、ホーム内のバリアフリーや、居室内の畳との段差解消など安全に生活できるよう環境を整備している。ベットから転倒の危険がある方は畳に布団を敷いて休んでもらい、車椅子移動時は低い椅子への移動⇒手すりを持って車椅子と残存機能を活かし支援している。	